

Title	米國の貿易に就て
Author(s)	下田, 禮佐
Citation	地球 (1925), 3(2): 268-274
Issue Date	1925-02-01
URL	http://hdl.handle.net/2433/182825
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

米國の貿易に就て

下田禮佐

第一章 緒論 貿易の發達

今から數十年前、獨逸の經濟學者で、本國を追はれて米國に逃れて居たフリードリッヒ・リストと云ふ人が、外國貿易上から國民經濟の發達に四つの時期を劃することが出来ること云つたことがある。

(一)國內農業の發達期で、外國製品の入、農産物原料品の輸出をする時、(二)外國品輸入と共に國內製造業の起る時期、(三)國內製造品が國內市場の大部分を充す時、(四)國內製造品の大部分が輸出され、原料農産物を輸入する時期がそれであると云ふ。而して各個人が協力する場合は國家即ち國民の結合が行き詰りで、其の次は全人類協力の時代が來なければならぬ。即ち一の世界的共和國が出來て、それには凡ての國民が同等の權力を持ち、腕力の行使を否認すべきである。然しかゝる全人類を包括する國際團體が成立するには、ある程度迄、人類が、産業・文化・政治的教育及び力に於て平等にならなければならぬと云つて居る。リストの云ふ國際協同の時代と云ふのは、社會主義者のユートピアであつて、近世國際聯盟とか、國際司法裁判所、萬國赤十字社其他各種の國際協

會が出来て、全人類の協力と云ふことが盛になる傾向があるが、一方には、米國の如く公然人種的差別待遇をする、關稅又は運賃等に極端な保護主義を取らうとする國もあつて、國際競争の勢は益激しくなる傾向がある。然し外國貿易だけは、國民對抗の勢が激しくなればなる程盛になる傾向がある。西曆一八〇〇年に世界各國の總貿易額は貳拾九億圓であつたのが、一九一三年には八百八億圓即ち二十七倍になつた。外國貿易は新需要を喚起し、國民の生活程度を高め、産業を複雑にし、且つ發達せしめ、又國民をして、經濟上單にある一國に依頼することなく、多數の國民と接觸せしめるから、國民の獨立を容易ならしめる。外國貿易の點から云へば、世界は今や有機的の一大團體であつて、各國は相互的關係で生存してゐるものである。故にある一國民、例へば露西亞國民と云ふものが、外國と全然貿易關係を絶て、此の經濟的國際團體の外に孤立すると云ふことは、雙方の不利益は勿論、到底永く堪へ能はざる所である。かく世界は貿易上から結び付けられたもので、政治上の組織、例へば國際聯盟の如きは、已存の組織を精神上に延長したものに過ぎない。かく外國貿易が發達し、國際間の關係が緊密になつたのは何故か、交通、通信の進歩が其の原因たることは争はれない。中世の如く、道路が不良で、各所の關所では、嚴重な旅行券の査證や高い通行稅があり、兇賊各地に出沒する時代に於ては、交通は緩慢、不規則且つ危險不確實であつて、貿易と云へば、少量の贅澤品、貴重品又は鐵、鹽の類に限られた。交通不便、貿易不振であるから、産業は起

らず、生活の程度は低く、人は貧乏暇なしで、精神上の思索にふける暇も持たなかつたのである。今や交通は安全、確實、容易且つ迅速になり、萬一の危險に對しては保險によつて之を輕減又は平均する途がある。人生は、物質上にも、精神上にも動的のものになり、ある國民の思想、產物、時には民族そのものまでが、殖民として廣く散布される。かゝる交通、貿易の發達は物質、政治、經濟等に關する科學の進歩と同時であつて、又其の進歩の結果である。デモクラシーの思想が發達したのも、一は機械の進歩の副產物と見做し得る。更に將來の世界の貿易は、新しい發明、例へば無線電信、無線電話、航空機、ディーゼルエンジン等によつて更に大なる發達をするに違ひない。されば今日は鎖國、即ち世界の經濟圈外に孤立するなご云ふことは夢にも出來ないことで、鎖國は即ち國民的滅亡である。獨逸が百戰皆勝ち、而して遂に聯合國に膝を屈したのは、聯合國に封鎖された爲めである。外國貿易の盛衰は即ち國民の榮枯盛衰を示すバロメーターと云へる。外國輸出がなければ、産業は起らない、即ち國力は振はない。然るに政治家、學者などの中に此の原理を無視して國內の物價が高くともよい、それ相當に國民の收入、賃銀などを増せばよいと云ふ者があるが、物價騰貴は即ち輸出を妨げる、それが忽ち産業衰微の原因となり、不景氣の元となるのであるから、かゝる理論は鎖國時代にしか通用しない議論である。

一八〇〇年から一九一三年に至る間に世界の貿易額は二十七倍となつたが、米國も之と同一歩調で、同期間に貿易額が二十七倍に躍進した。輸出入品の内容から云つても、輸入品は、原料品が一八二〇年に全額の四%であつたのが一九一三年に三五%となり、原料用製品（例へば生絲、バルブの類）は七%から一九%に増加したが、製造品の輸入は、同期間に五七%から二三%に減じ、食料品の輸入は西部の開拓に伴つて減少した。輸出の方面に於ては、同期間に、原料の輸出が全輸出額の六〇%から三〇%に減じ、製造品の輸出は六%より三二%に、原料用製品は九%から一七%に夫増加し、食料品の輸出は西部の開拓が頂上に達するまで、即ち一八九〇年代までは増加し、其後は衰へた。かく貿易品の内容を見ても分る通り、米國は十九世紀の初めから最近に至るまでに原料を輸出する農業國から製品を輸出する工業國に進んだのである。貿易の相手國も獨立後間もない一七九〇年には英、佛、西、蘭、葡の五國が米國の輸出の九六%を占め、輸入は、英、佛、蘭で八二%を占めてゐて、特に殖民地時代の名残として、英國との取引が多く、經濟上は尙英國に依屬してゐたが、一九一三年には、輸出は英、獨、加、蘭、佛で六五%、輸入は、英、獨、加合せて三五%であつて、已にある一國のみに依屬すると云ふことはなくなつた。

かく米國の獨立後世界大戰までに貿易上に現はれた著しい變動は、國民經濟の自然の發達の結果として、（一）貿易品の内容が變つたこと、（二）相手國がふえたことであるが、世界大戰の結果更に

色々の變動が現はれた。(一)新工業の勃興、即ち戰時、獨逸の輸出杜絶、工場破壊などにより、染料、加里、化學製品、光學機械、學術機械、玩具等今迄獨逸の特産物として米國に輸入された物が新に米國で製造されることになり、此の新工業を保護する爲に、米國は一九二二年、フォードニー・マツカンバー法と云ふ關稅法を出した。之は歐洲の生活程度の低い處で作られた生産費の安い商品が、生産費の高い米國の新興工業を壓倒しない様に、歐洲と米國との生産費の差額だけの關稅を課すると云ふので、此の法律に由て米國の新工業が基礎を据ゑた譯である。(二)世界各地との直接取引の開始、米國は戰時、軍隊軍需品の輸送及び交戰國船舶の航路撤退による船舶の缺乏を補ふ爲に船舶院を創立し、殆ど一千萬噸の商船隊を作り、新に世界各地に航路を開いた。戰後それが永久的となつて米國と世界各地との間に直通航路が開始された爲め、米國と極東、南洋、地中海、南米等との取引は、ロンドン、ハンブルグ、ロッテルダムなどを通じて、積替、委託販賣等に由たのであるが、今や直接取引が開始され、羊毛、ゴム、茶、礦物等も直接產地から輸入されることになつた。(三)貿易のバランスの變化、米國は國際貸借關係に於て債務國であつて、年々歐洲の債權國へ利子・配當等巨額の支拂勘定がある、それが物資として支拂はれるから、貿易は當然輸出超過であつて、一九一一——一四年の四個年間、輸出超過年額平均五億五千萬弗であつた、而して此の輸出超過は、證券利子配當一億二千五百萬弗、其の外船賃、移民の本國送金、米國人の觀光開消費金等

の對外支拂勘定で平均されたのである。然るに世界大戰中に、米國は莫大な軍需品・食料を歐洲に輸出したので、代償として英國は、其の所有する米國會社の株券二〇億弗を紐育市場で賣放ち、別に正貨十億弗を現送し、市場で公債十億弗を募集し、外に米國政府は米國から歐洲に輸出した軍需品、食料の代理支拂をして、米國政府として百億弗を貸付けた。蓋し世界大戰中の米國の輸出超過額は總計一一、五二四百萬弗であつて、其の大部分が聯合國への供給であるから、其の代りに、十億弗の正貨と、一三〇億弗の證券を受取つたのである。而して休戰後は我國の如きは即時輸入超過に變じ、已に二七七千萬圓に上るのに、米國は戰後の大景氣で益輸出超過となり、最近輸出超過の勢がやゝ衰へたが、一九一九年一月から昨年六月迄の四年半に累計一〇一億弗、一年平均二、二四四萬弗と云ふ輸出超過である。かく米國は戰前に債務國であつたのが一轉して債權國となつて、其の利子收入だけで年に五億弗にも上る筈である。外に船舶收入、銀行手数料等も著しく増加した。故に今は貿易の巨額の輸出超過は貿易以外の勘定で差引されないのみならず、却て米國の受取勘定は貿易出超の増大と貿易外の收入とで増加するばかりで、バランスが不平均になるばかりである。之を調節するには受取勘定の超過だけを投資貸付する外はない。例せば日本に復興材料たる鐵材・木材を輸出するには、日本の公債に應募して、其の貸付金の代りに材料を出すと云ふことにする、歐洲交戰國は皆疲弊して復興を要するが材料を買ふ金もなく、輸出する產物も少い、即ち品物を輸入して

代金の代りに證券を興へる外はない。勿論米國は成金簇出で、それらの連中は歐洲や東洋へ觀光に殺到する、觀光團の消費金が一九二二年に一億七千萬弗、移民が米國から本國に送る金が同年度に四億弗に上つたが、年額二十數億弗の輸出超過に加ふるに海外投資の収入は到底之位の支拂では平均されない、結局輸出を制限するか、輸入を多くするか、海外に投資するの外はない。つまり今後米國の貿易のバランス及び投資の範圍を決定すべきものは、米國と外國との勞銀の差額並びに生産費の多少、資本需要の多少、生活程度の差異、節約の流行、利子の高低等である。(以下次號)

一九二二年度の米國の貿易高

輸出高三、八三一、九三二、一九三弗(七十六

億六千萬圓)輸入高三、一一一、五四八、七七二弗(六十二億二千萬圓)差引七一九、三八三、四二一弗(十四億四千萬圓)の輸出超過で輸出商品の第一は棉花六百萬俵六億七千三百萬弗で、乾物及同製品は第二位を占めて價格五億一千五百萬弗に達し石油三億萬弗で第三位で居り、肉類、動物脂、藥、煙草、棉製品、鐵及鋼、銅及同製品、車輛何れも一億弗以上の輸出額を占めてゐる、蓋し米國は農業國としての色彩が濃いといふべきである。